

1月3日(日)

聖書

ヨハネ 3・1～15

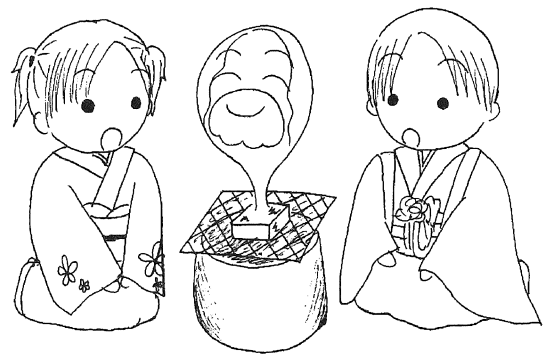
聖句

だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。 3節

新しい主の年二〇一〇年！最初の日曜日の礼拝ですね。さあ、この新しい年はどんな年になるのでしょうか？年が新しくなっても、もし心が新しくならなかったら、やっぱり罪や失敗の年になってしまいます。神の国とは、神様が王様の国です。その国を見たり、入ったりするには、その国の人となるために心が新しく生れ変わらなければなりません。どうすればいいのかな？十字架で私の罪のために死んでくださったイエスを仰いで信じるのです。

いのちの祈り 天のお父様、新しい主の年を感謝します。私の心もあなたを王様としてお迎えして新しく生れ変わらせてください。

a happy NEW year



聖書

ヨハネ 3・1～15

タイトル

新しく生れる

暗唱聖句

だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。

ヨハネ 3・3

目標

新しく生れる恵みにあずかろう。

1月5日(火)

聖書

ヨハネ 3・5～10

聖句

あなたがたは新しく生れなければならぬと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。 7節

「まさかもう一度お母さんのお腹にはいつて生れるなんてできっこないよ」とだれでも思いますよね。でもイエスはまた「新しく生れなければならぬ」と言われ、「不思議に思わないように」と言われます。「それは、水と霊とから生れることで、ちょうど風が吹くような具合だよ」と言われても、やっぱりニコデモさんは、「どうしてそんなことがあり得ましょうか」とチンプンカンプンです。イエスは「この答えにあきれて、もっとくわしく教えてくださったのです。」

いのちの祈り 天のお父様、目に見えない心や霊のことは見えることよりもっと大切です。そのことに目が開かれますように。

1月4日(月)

聖書

ヨハネ 3・1～4

聖句

人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。 4節

パリサイ人といえば、神様の教えをしつかり守っている特別な人、ユダヤ人の指導者なので、すから、何もかもわかっていて教えることのできるリーダーです。そのニコデモさんが、だれにも知られないように、夜、こっそりひっそりイエス様のところへたずねてきました。「新しく生れなければ」とイエス様に言われて、「エッ？」と首をかしげましたよ。ニコデモさんに「だててわからないことがありました。でもイエス様の所にきたことは一番よいことでした。」

いのちの祈り 天のお父様、私もニコデモさんのようにたずねるでしょう。新しく生れることが何かよくわからせてください。

1月7日(木)

聖書

民数記21・1～6

聖句

そこで主は、火のへびを民のうちに送られた。へびは民をかんだので、イスラエルの民のうち、多くのものが死んだ。 6節

ぶつぶつ、ぶつぶつ、カニのようにつぶやく子どもはいませんか？こでイスラエルの人たちは、つぶやいてしまいました。「ああ、しんど、いつまでいくの、死んでしまふよ、あのマナにはあきあきしたよ。」つぶやきは神様の耳には筒ぬけ！火の毒へびにかまれて、たくさんの人たちがバタバタとたおれて死んでいきました。今もそんなへびの毒のような罪が心の中にあって、死んだような心をもつ人たちがいっぱいいます。つぶやきの罪はないですか。

いのちの祈り
天のお父様、大昔も、今も、私たち人間の心は同じです。つぶやくことがないようにどうぞお守りください。

1月6日(水)

聖書

ヨハネ3・11～15

聖句

ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。 14節

ユダヤ人の指導者、パリサイ人のニコデモさんでしたから、モーセが荒野で上げたへびのことを言われたら、すぐにピンとわかりました。あなたはわかりますか？あの日、あの時、イスラエルの民は神様につぶやいて、神様から送られた火の毒へびにかまれて苦しみました。モーセが神様の命令で、さおの上にかがけた青銅のへびを仰いで見た人だけが救われたのです（民数記21章）！イエス様もそのように十字架にかけられ、そのイエス様を信じて新しい命が与えられるのです。

いのちの祈り
天のお父様、荒野のへびのように十字架にかかれたイエス様を仰いで信じるとき、新しく生れることを感謝します。

1月9日(土)

聖書

ヨハネ3・16～21

聖句

それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。 16節

「あつ、すごい！毒がなくなって、生きている！へびを仰いで見た人は、どうしてかわからないけれど神様のお言葉を信じてそのとおりにしたら、救われたのです！それしか救われる方法はありませんでした。今はーイエス様の十字架、十字架のイエス様です。「私の罪の代わりに死んでくださってありがとうございます」と信じるとき、すべての罪がゆるされて、新しく生まれ、永遠の命が与えられます。ひとり子イエス様を私のためにくださった神様の愛！

いのちの祈り
天のお父様、新しく生れるということがわかりました。新しい年、私も新しく生れた子どもになりたいです。

1月8日(金)

聖書

民数記21・7～9

聖句

すべてへびにかまれた者はその青銅のへびを仰いで見て生きた。 9節

「モーセさん、ごめんなさい！私たちは主にむかってても、あなたにむかってても、つぶやいて罪を犯しました。お願いですから、へびを取り去ってくださいよう、主に祈ってください。」人々は青くなつてモーセにお願いしました。モーセが祈ると主は、「火のへびをさおの上に掛けなさい。すべてのかまれた者が仰いで、それを見ると生きる」と言われ、モーセがそのとおりにすると、すべてへびにかまれた者がさおの上のへびを仰いで生きました。

いのちの祈り
天のお父様、あなたのお言葉のとおりにした時、人々が生きました。今イエス様の十字架だけが生きる道です。

1月10日(日)

聖書

ローマ 3・9～26

聖句

彼らは、^{あたい} 神の恵みにより、
キリスト・イエスによるあがないによ
って義とされるのである。 24節

「あなたはまちがってるよ、正しくないよ」と言われるとだれでも頭にカチンときます。なぜなら、みんな「自分は正しい」と思っているからです。でも聖書によると、実は『みんな罪人、みんなまちがっている』というわけです。絶対にまちがいない正しい神様からごらんになるとそうなのです。そんな私たちが、ただ、イエス様を信じるだけで、神様が「よし！」としてくださいます。つまり新しく生れた人は、みんな神様に義とされたということです。

いの祈り 天のお父様、ただイエス様を信じるだけで、あなたから「正しいよ」と言ってもらえることを感謝します。



聖書

ローマ 3・9～26

タイトル

神の恵み

暗唱聖句

彼らは、^{あたい} 神の恵みにより、
キリスト・イエスによるあ
がないによって義とされるのである。

ローマ 3・24

目標

ただ信じて義とされる恵みにあず
かろう。

1月12日(火)

聖書

ローマ 3・19～20

聖句

律法によっては、罪の自覚が生じるの
みである。 20節

「そこにあるおやつ、今食べてはいけませんよ」と言われると、「ハイ！」と口では言っても、「そう言われると、今食べたくなるよ」と、ちよいとつまみ食い、なんてことありませんでしたか？ 律法というのは、「してはいけません」「こうすべきです」という命令ですが、人はなかなかそのとおりに行えないのです。ですから、律法というのは、私たちが罪深い者だという自覚を、ますます深くさせてくれるものなのです。

いの祈り 天のお父様、人はあなたの定められた律法をなかなか守れないし、ますます罪人だという自覚が深くなります。

1月11日(月)

聖書

ローマ 3・9～18

聖句

義人はいない、ひとりもない。10節

今日の名言葉は、詩篇14篇1～3節にも同じ意味のことが書いてあります。アダムが罪を犯してからずっとそうだったし、これからもうそうなのです。まことに、お先、まっ暗ですね。あの博士号をもらった超頭のいい人も、ミス日本のお姉さんも、かっこいいスポーツマンも、かわいらしい赤ちゃんも、大金持ちのおじさんも、みんな、みんな罪人です。だから「善を行う者はいない」(12)「神を求める人はいない」(11)のですね。だれか何とかして！と叫んでしまいます。

いの祈り 天のお父様、人として生れた人はみんな罪人であることがわかります。私もまちがいなくその一人だと認めます。

1月14日(木)

聖書

ローマ 3・23～24

聖句

すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、
23節

アダムとエバが、食べてはいけない木の
実を食べて罪を犯した時、どうなったで
しょう？何が起ったのでしょうか？二人は神様
の足音を聞いて、パツと木の陰に隠れたの
でした。神様のかたちに造られた二人でし
たが、その神の栄光の輝きがなくなっ
てしまいました。それからずっとすべての人
が罪を犯し続けてきて、人はみんなきよい
な神様から隠れるようにして、罪のやみの中
を歩いて、神様の栄光など、とても受けら
れる者ではなくなっていました。

いのちの祈り
天のお父様、私の心の中にも、隠れたいという思いがあるのがわかります。人の罪深さを知ります。

1月13日(水)

聖書

ローマ 3・21～22

聖句

それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。
22節

私たちの心の叫びにこたえるようにして、
ついに神様は、神様の前に人が正しいとさ
れる道を開いてくださいました。それがク
リスマスでした。救い主イエスを信じてプ
ゼントしてくださいましたのです。一つも罪を
犯されなかったイエス様が、罪ばかり犯し
てきた私に代わって、十字架で刑を受け、
血を流し、死んでくださいました。しかし
3日目によみがえって、イエス様を信じる
私たちが神様の前に正しい者としてくださ
います。信じることは偉大！

いのちの祈り
天のお父様、私たちが義とくださるたつた一つの道は、救い主イエスを信じることで知
り感謝します。

1月16日(土)

聖書

ローマ 3・24

聖句

彼らは、価なしに、神の恵みにより、
キリスト・イエスによるあがないによ
って義とされるのである。
24節

では、なぜでしょう？次に二つのことが
書かれています。「神の恵みによ
り」です。それは神様のあわれみの心から
です。神様は、私たちが罪を犯し続けて、つ
いには滅びてしまおうと思うと「かわいそう」
と思って、何とかそこから救いたいたと手を
のばしてくださいましたのです。そして、イエ
ス様のあがない、つまり身代わりの十字架
の道を開いてくださいました。このように
して、「ただ信じるだけで義とされる」の
です。あなたもこの恵みを！

いのちの祈り
天のお父様、あなたの大きなあわれみと、イエ
ス様の深い愛による犠牲により、ただ信じるだけ
で義とされることをありがとうございます。

1月15日(金)

聖書

ローマ 3・24

聖句

彼らは、価なしに、神の恵みにより、
キリスト・イエスによるあがないによ
って義とされるのである。
24節

素晴らしいこの恵みの言葉を、この2
日間覚えてまいりましょう。きょうは、「価なし
に」義とされるということを考えてみます。
つまり「ただで」「何も支払わないで」義
としていただくのです。「ただ」はどうれ
しいことはないですよ。お正月にはお年玉
をもらったでしょう？何のアルバイトも
しないで「ただ」でね！神様の前に、こ
んなにも罪ばかり犯してきた私たちが「義」
としていただくなんて、お年玉どころのさ
わぎではありません。ではなぜでしょう？

いのちの祈り
天のお父様、私たちが何かを何とかでなく、
「ただ」であなたに義としていただけることを本当
に感謝します。

1月17日(日)

聖書

Iヨハネ1・5～10

聖句

もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。 9節

神様が私の罪をゆるしてくださいと、ハッキリと「罪のゆるし」がわかるにはどうしたらいいでしょうか。きょうのみ言葉のとおりにしたらいいのです。つまり、神様の前に「自分の罪を告白する」のです。一つ一つ、ありのままにね。すると神様の光の中で、自分がどんなに罪にまみれた子どもかよくわかります。そして、こんな私に代わって十字架で死んでくださったイエスを仰ぐのです。やってみてください。

いのちの祈り 天のお父様、自分ではどうすることもできないすべての罪が、告白することによりすべてゆるされることを感謝します。ハレルヤ！



聖書

Iヨハネ1・5～10

タイトル

罪の赦し

暗唱聖句

もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。 Iヨハネ1・9

目標

罪の赦しを確信し、光の中を歩もう。

1月19日(火)

聖書

Iヨハネ1・5～6

聖句

神は光であって、神には少しの暗いところもない。 5節

私たちはいろんな暗やみに囲まれていますね。夜は暗いし、屋でも陰は暗いし、窓のないお家の中はとっても暗いし、地下も電気が消えると暗いし、トンネルの中もライトがないと暗い。でも、もっと恐ろしい暗やみは、実は人の心の中にいっぱいあるのです。いや、思い出し、罪のやみの恐ろしさ、災害の不安や、将来への不安の闇と、なんて暗いことでしょう！でも！神様は光そのもので、少しの暗いところもないお方なのです。本当にこのお方にのみ希望があります。

いのちの祈り 天のお父様、人の心と世の中は、やみでいっぱいです。あなたの輝く光を照らして、明るくしてください。

1月18日(月)

聖書

Iヨハネ1・1～4

聖句

この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである。 2節

「初めからあったものの、聞いたものの、見たものの、手でさわったものの、つまりいのちの言」ってヨハネは書いていますね。この命、また永遠の命は、そもそも父なる神様と一緒にいましたが、今やわたしたちに現れてくださいました。この人ってだれだと思いませんか？『イエス様！』ピン・ポーン、正解！へえ、いいなあ、ヨハネやお弟子さんたちは、たしかに手でさわれたんだよね。今、私たちもこのイエス様や神様とお交わりができるのです。

いのちの祈り 天のお父様、天からの永遠の命、尊いイエス様をありがとうございます。さらにしっかりと交わりしたいです。

1月21日(木)

聖書

Iヨハネ2・1～2

聖句

彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。 2節

罪がゆるされるって、何て大きな喜びでしょう！ あなたはもう、この喜びを知りましたか？「もう、これからは絶対、罪を犯したくない！」と心に固く思ったことでしょうか。それが悔改めということなのです。ところが、弱い人間―子どもだけでなく、大人だって―は、ついまた罪を犯してしまいます。でも、「しまった、もうダメだ」と思わないように。もし罪を犯しても父のみもとに助け主イエス様がおられます。あなたのため、そして全世界の罪人のために！

いのちの祈り

天のお父様、あなたは弱い人間のことをよくわかっていてくださって、いつまでも助けてくださり感謝です。

1月20日(水)

聖書

Iヨハネ1・7～10

聖句

御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。 7節

手がよごれると石けんで洗います。身体がよごれるとお風呂やシャワーできれいにします。洋服がきたなくなったら洗濯機で洗います。心が罪でよごれたら、どうしましょう？心がきたないのはどうしたらわかるのでしょうか？うす暗がりでは見えない白いハンカチの汚れが、まぶしい太陽の光の中ではいっぱい見えるように、神様の言葉の光の中で、心の罪がハッキリと見えてきます。その時！イエス様の血だけが私たちの罪をゆるしきよめてくださいます。

いのちの祈り

天のお父様、あなたの鋭い光を当てて罪を示し、イエス様の血によってその罪をゆるしてください感謝します。

1月23日(土)

聖書

Iヨハネ2・7～11

聖句

兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまづくことはない。 10節

「私はひとりっ子で兄弟はいません」、とか「私たちは女の子ばかりで兄や弟はいないです」、というようなことではなく、「こで兄弟」というのは、あなたのまわりにいるすべてのお友だち、すべての人をさしているのです。罪ゆるされて、イエス様の光の中を歩いている人なら、みんなお友だちどうし、愛し合はずですよとヨハネは記しています。そしてこれは、イエス様からの古くて新しい戒めなのです。毎日お祈りして、その日出会う一人一人を愛せますようにー。

いのちの祈り

天のお父様、大切な愛の戒めをありがとうございます。イエス様の光の子どもとして守れるよう助けてください。

1月22日(金)

聖書

Iヨハネ2・3～6

聖句

「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。 6節

お父さんか、おじいちゃんか、お母さんか、おばあちゃんか、先生かの前に行って、両手を持ってもらい、あなたの両足をその人の両足の上に重ねて歩いてもらったりしたことがあるでしょう？もしなかったら、ちよつとやってみてみてもいいかも。とても面白いよ。想像してみよう。もし、その人がイエス様だったら！とっても安心です。絶対にまちがった道に行くことはありません。イエス様を信じて共に歩くということはこんな感じなのですよね。

いのちの祈り

天のお父様、イエス様の両足の上のにつかっているように、愛と真理の中をみ言葉に従って歩かせてください。

1月24日(日)

聖書

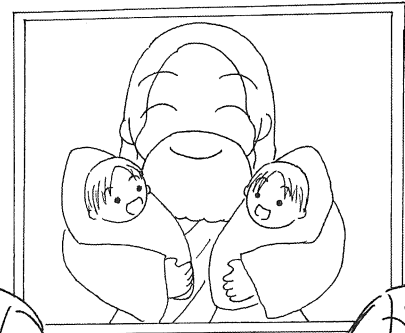
Iヨハネ3・1～3

聖句

わたしたちは、すでに神の子なのである。
1節

私たちは『神の子』！罪をおわびし、イエス様の十字架でゆるしてもらって、父なる神様と仲直りした私たちは『神の子』とされているのです。スゴイことです。肉親のお父さんには、時々ガッカリすることがあっても、この天のお父様には絶対にそのようなことはなく、もっともつとこの父の子にふさわしくなりたいたいという思いが増すでしょう。そしてだんだんとこの父に似る本物の神の子に成長していきます。何という気高い希望でしょうか！

いのちの祈り 天のお父様、私を神の子としてくださったあなたの愛がどんなに大きいものかさらに深く知らせてください。



聖書

Iヨハネ3・1～3

タイトル

神の子

暗唱聖句

わたしたちは、すでに神の子なのである。
Iヨハネ3・1

目

神の子として大きな愛を父から受けていることを知ろう。

1月26日(火)

聖書

Iヨハネ4・9

聖句

神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにしてくださった。
9節

あなたはひとり子？それともたくさん兄弟がいるのかな？子どもは何人いても、親にとっては、一人一人がとっても大切な一人の子どもだったら、余計に大切です。父なる神様は私たちを愛してくださって、その大切なひとり子イエス様をこの世に送ってくださったいました。暗くて冷たい汚れたこの世にね。それは私たちがイエス様によって救われて、本当に清く生きることができるようになってくださったためでした。

いのちの祈り 天のお父様、罪の中で死んでいた私が清く永遠に生きるためにひとり子イエス様をくださった愛に感謝です。

1月25日(月)

聖書

Iヨハネ4・7～8

聖句

愛さない者は、神を知らない。神は愛である。
8節

本当の愛というのは、ただ父なる神様から出たものなのです。ここに使われている「愛」という字のギリシャ語は、「アガペー」という、「神の愛」をあらわすものです。他にはエロス（男女の愛）、ストルゲー（肉親の愛）、フィリア（友情）のような愛をあらわす言葉がありますが、これらの人と人との間の愛は、しばしば欲がからんでしまうと恐ろしいことになります。でもアガペーの愛はちがいます。純粋で犠牲的な裏切らない愛です。これが父なる神様の愛です。

いのちの祈り 天のお父様、あなたは愛なるお方。人と人との間の愛とは質のちがう愛をもって愛してください感謝します。

1月28日(木)

聖書

I ヨハネ 4・11~12

聖句

神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。 11節

父なる神様の愛について考えれば考えるほど、なんと大きな愛なんだろうと圧倒されてしまいませんか？それにひきかえ、私の心は何て小さくて、狭い、愛のうすい、いえ、実は愛のひとかけらもない心だなあ、とため息がでるかもしれません。罪をゆるしてもらって神の子とされてもです。もっとも父なる神様の愛を深く味わいましょう。そして、そんな愛を私も心にいただいて、互いに愛し合える、本物の「神の子」として生かされていきたいですね。

いのちの祈り 天のお父様、私たちが心から互いに愛し合うことこそ、あなたの子どもである一番のしるしとわかりました。

1月27日(水)

聖書

I ヨハネ 4・10

聖句

ここに愛がある。

10節

「本当の愛って、どこにあるんだろう？」と、あなたも考えたことがありますか？生れる前から教会へ行って、神様の愛のお話を聞いてきているお友だちは何て幸せでしょう！私たちのまわりにはそうでない子どももたくさんいます。教会に答えがあります。聖書に答えがあります。「ここに愛がある」。つまり、私たちではなく、先に神様が私たちを愛してくださって、救い主イエス様をおつかわしくくださったのです。感謝にあふれて伝えたいですね。

いのちの祈り 天のお父様、あなたにそっぽを向いて罪ばかり犯してきた私のために、イエス様をつかわし愛をあらわしてくださり感謝します。

1月30日(土)

聖書

I ヨハネ 4・17~21

聖句

愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとのぞき除く。 18節

あなたはこわがり屋さんですか？暗い所はこわいし、一人で行くのもこわい。次はどうなるんだろうと思うとまたこわい。でももう大丈夫。父なる神様の子どもとして愛されているあなたですから、必ず、神様が共にいて守って安心させてくださいます。こんなにも愛されているんだから、私も、ボクも、父なる神様を心から愛していこうと思うと、とても心が温かくされ、強くされていくでしょう。そのようにして完全な愛は恐れをしめ出してしまうのです。

いのちの祈り 天のお父様、大きな愛をもって愛して下さるあなたを私も心から愛します。恐れをしめ出してくださり感謝です。

1月29日(金)

聖書

I ヨハネ 4・13~16

聖句

わたしたちは、神がわたしたちに対して持っておられる愛を知り、かつ信じている。神は愛である。 16節

父なる神様の広く大きな深い愛から、実はもう一人のお方がつかわされてきたのを知っていますか？ひとり子なるイエス様が十字架で死に、3日目によみがえられ、40日目に天に帰られました。心細い弟子たちに「祈って待ちなさい」と言われた父なる神様は、弟子たちが祈りはじめてから10日目に、もうひとりの助け主なる御霊を降してくださったのです。心がゆらぐ時も、このお方により祈るとき、「神は愛である」と疑うことのできない信仰がわきあがります。

いのちの祈り 天のお父様、弱くゆらぎやすい私のために御霊をくださり感謝します。御霊の助けで祈り、ゆらぎない心になってください。

1月31日(日)

聖書

ローマ 8・12～17

聖句

もし子であれば、相続人でもある。

17節

相続なんて、とても難しい言葉ですね。親が亡くなったあと、その財産や持ち物などを引き継いで受け取ることができる人を相続人と言います。ふつう、その人の子どもがそうなるのです。たくさんの財産がそっくりそのままもらえるなんて、ホクホクかしら。中には、多くの借金を受け継がなければならないなんて、つらい思いをする相続人もいたりします。でも、神の子の私たちは、イエス様と共同の相続人です。何というすごい遺産でしょうね！

いのちの祈り 天のお父様、神の子とされることは、この世での幸せばかりでなく永遠の驚くばかりの祝福があり感謝でいっぱいです。



聖書

ローマ 8・12～17

タイトル

相続人

暗唱聖句

もし子であれば、相続人でもある。

ローマ 8・17

目標

キリストが相続するすべてを与えられることを信じて感謝しよう。

2月2日(火)

聖書

ローマ 8・14～15

聖句

すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。

14節

神のみ子イエス様が、私たちと同じこの地上で生活されていた時、いつも神の御霊に導かれていたことが記されています。ですから、イエス様を信じて、神の子とされた私たちをも、御霊なる神様が導いてくださいます。どのようにして？ 聖書のみ言葉に従い、お祈りをし、そして、心が平安な方向に歩み続けて行くことによって、です。イエス様とお出会いはするまでは、自分の欲に従っていたのに。時にはどっちへ行っているかわからなかったのに。感謝です。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様を導かれた同じ御霊に導かれて、私たちも神の子として歩めることをありがとうございます。

2月1日(月)

聖書

ローマ 8・1～4

聖句

こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。

1節

私たち神の子は、神様の前に罪をおわびして、イエス様の十字架を信じて、罪ゆるされた者たちです。だから「君、あんな罪犯しただろう」と言っても、「ハイ、でもイエス様によってゆるしてもらいました」と言えます。悪魔が心にささやいてきます。「お前、こんな罪も犯したじゃないか」と。その時も「ハイ、でもイエス様によってゆるしてもらいました」と言えます。罪のないイエス様の十字架によって、信じる私たちは罪に定められないのです。

いのちの祈り 天のお父様、恐ろしい罪の重荷から本当に自由にしてくださって、罪に定められない者となり感謝しています。

2月4日(木)

聖書

Ⅱ テモテ 2・8～13

聖句

もし耐え忍ぶなら、彼と共に支配者となるであろう。 12節

イエス様のために、福音のために、たくさんの苦しみを受け、迫害された人といえぱパウロさんでしょう。ローマの牢獄の中で、愛する子どものようなテモテに書きました。「この福音のために、わたしは悪者のように苦しめられ、ついに鎖につながれるに至った」と！でも多くの人が救われて、共に永遠の栄光を受けてほしいので、私はすべてを耐え忍んでいる、と。そして耐え忍ぶなら、イエス様と共に支配者になれるのだと。私たちも耐え忍びましょう。

いのちの祈り 天のお父様、やがて相続する天の永遠の栄光のことを思うなら、今のどのような苦しみも耐えることができます。

2月3日(水)

聖書

ローマ 8・16～18

聖句

神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。 17節

クリスマスにイエス様がこの暗く冷たく汚れた地上に來られる前に、天で持つておられた栄光はまぶしいばかりのものだったでしょうね。私たちはやがて、その輝く栄光の御国の相続者になるのです！だからこそ、イエス様が地上でなめてくださったいろいろな苦しみを、神の子である私たちも今味わうのです。教会に行っているから、教会の子どもだからという理由で、とてもつらい思いや悲しい思いをすることがあるのです。

いのちの祈り 天のお父様、やがて相続する天の栄光に比べると今の苦しみは小さく思えます。耐えられますか感謝です。

2月6日(土)

聖書

黙示録 22・1～5

聖句

主なる神が彼らを照し、そして、彼らは世々限りなく支配する。 5節

もうこの最後の章では、「世々限りなく支配する」とあるではありませんか！イエス様が再びこの地上に、信じる者たちを迎えに来てくださる時、（もちろん悪魔と信じない人々は永遠に火と硫黄の池に！）古い天地は消え、新しい天地があらわれ、聖なる神の都が天から降ってきます。神と小羊（イエス様）の御座が都の中にあります。私たちは神様を礼拝し、神様のお顔を仰ぎ見るのです！額に御名をしるされた私たちは永遠に神と共に支配します。

いのちの祈り 天のお父様、気が遠くなるような栄光の相続人としてくださり、感謝します。その光の中を歩き続けさせてください。

2月5日(金)

聖書

黙示録 20・1～6

聖句

彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。 6節

聖書という本は本本当に「本の中の本」です。その最後、66巻目の黙示録もスゴイです。これからこの世界がどうなっていくかがちゃんと書かれています。神様が著者であるこの聖書に書かれているとおりに歴史は動いてきました。ですからこれからも、この黙示録に書かれてあるとおりのことがまぢがいなく起るのです。黙示録は、信じる私たちに与えられる第一の復活と、それに続いて千年の間キリストと共に支配する時が來る、と言っています。それにあずかる一人でありたいですね。

いのちの祈り 天のお父様、その日その時になって、「ああ、イエス様を信じていて本当によかった！」ときと思うでしょう。

2月7日(日)

聖書

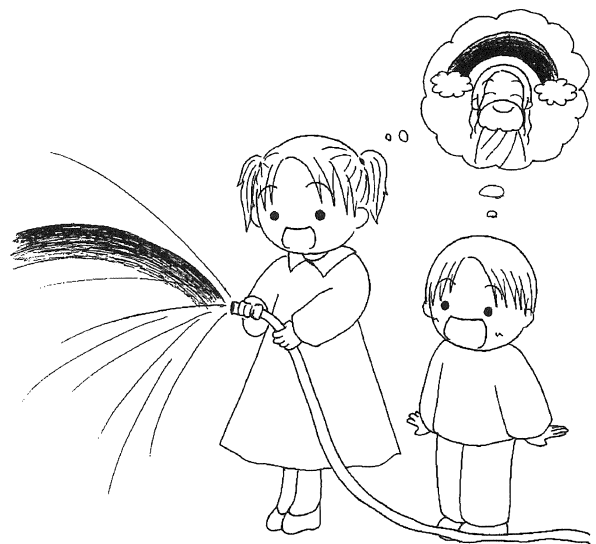
ローマ5・1～11

聖句

神の栄光にあずかる希望をもって喜んで
いる。 2節

一月は新しく生れるという希望について
てきました。二月は生れ変わった心がさらに
よくされるところ希望を共に聖書から見
き、そのようなよい心と生活が与えられ
すよう祈りましょう。信じて神様の前に正
しい者とされ、イエス様によって、神様と仲直
りをして、平和が与えられ感謝です。そこ
ら、一月にも学んできたように神の栄光にあ
ずかる希望をもって、私たち神の子は喜んで
います。やがての栄光と共に、今、この地
で栄光を現わしたいですね。

いのちの祈り
天のお父様、やがて天上でのあなたの栄光にあ
ずかる希望を喜びながら、今この地で栄光を輝か
せられますように。



聖書

ローマ5・1～11

タイトル

栄光にあずかる希望

暗唱聖句

神の栄光にあずかる希望をもって
喜んで。 ローマ5・2

目標

決して失望に終わらない希望に生か
されよう。

2月9日(火)

聖書

ローマ5・5

聖句

希望は失望に終ることはない。 5節

苦しみや悲しみによって鍛えられた心にこそ
希望が生み出されてきて、そしてその希望は失望
に終ることがないであります。今まで、心の
にあった希望がそのとおりにならないで、がっ
かり、がつくり、失望しちやうたということがあ
ったでしょうか。苦しみの中から生み出されて
くる希望というのは失望に終らないのですね。
それは御霊によって、神様の愛が心に注がれて、
どこまでも神様を信じぬいて、望みぬいていく
からなのでしょうね。

いのちの祈り
天のお父様、苦しみの中に与えられる希望とい
うのはきっとあなたからのもので、それは失望の
ないものと信じます。

2月8日(月)

聖書

ローマ5・3～4

聖句

それだけではなく、患難をも喜んで
いる。 3節

だれだって、「苦しいことや、悲しいことや、
つらいことはいやだよ」と思うでしょう。
ところが、神の栄光にあずかる希望をもって喜
んでいる神の子たちはそうではないのです。
患難をも喜ぶのですって！「苦しみよ来い、
悲しみよ来い」って。なぜかと言うと、苦しみ
の中で忍耐が生れ、育ちます。忍耐すること
によって心が鍛えられます。そのような中から
こそ、希望が生み出されてくるのだと言うので
す。そう考えると、患難も尊いし喜べますね。

いのちの祈り
天のお父様、苦しいこと、悲しいことの中に、
こんなにもよいものが生み出されていくのを知り、
感謝します。

2月11日(木)

聖書

ローマ 5・9～10

聖句

和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。

10節

「生れながらの怒りの子」(エペソ 2・3) というのは、その子がいづでもプンプン怒りっぱいというのではありません。これは、神様がお怒りになるようなどうしようもない子どもという意味です。生れつきの人はみんなそうです。でもイエス様を信じて義人とされたので、その神の怒りから救われます。私たちが敵であった時でさえ、イエス様によって仲直りをさせてもらったのですから、仲直りしている今はもちろんのこと救われているのです。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様の十字架にあらわされた愛と、流してくださった血の尊いことが本当によくわかります。

2月10日(水)

聖書

ローマ 5・6～8

聖句

まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

8節

私たちが好きになったり、愛したりする人たちは、私のことをよく思ってくれたり、親切にしてくれる人です。でもイエス様は、弱かった私たちのために、不信心で「神様なんか必要ない!」と言っていた私のために、罪ばかり犯していた私のために、敵対したり、反抗したりしていた私のために、十字架で死んでくださって、神様の愛をあらわしてくださいました。この愛を思えば、失望などわいてきませんね。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様の十字架をとおしてあなたの愛が驚くばかりの愛だと知りました。ますます信じていきます。

2月13日(土)

聖書

I ペテロ 1・3～9

聖句

現在、見てはいないけれども、信じて、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれている。

8節

これはお弟子のペテロさんが、迫害によって、散り散りバラバラになっっているクリスチャンたちにあてて書いた手紙です。その人たちは、さまざまな試練の中で悩まながらも、その中で大いに喜んでいたので、さすがに本物のクリスチャンですね。目の前にイエス様を見ることはできなくても、心からイエス様を愛していました。見てはいなくても信じて、言葉であらわせないような輝きにみちた喜びにあふれていたのです。救われたクリスチャンの鏡!

いのちの祈り 天のお父様、私も本物のクリスチャンとなって、イエス様を愛し、輝きに満ちた喜びにあふれて生きたいです。

2月12日(金)

聖書

ローマ 5・11

聖句

今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。

11節

さあ、私たちが神の子たちが何を喜ぶのか、聖書から見えてきましたね。今まであなたが喜んできたものは何でしたか? 成績が上がったこと? おいしいものが食べられたこと? 大好きなゲームが手に入ったこと? 楽しい所に行けたこと? それらも神様に感謝することですが、神の栄光にあずかる希望をもって喜びましょう。患難をも喜びましょう。できるかな? そして、ついには、仲直りをさせてくださったイエス様によって神様ご自身を喜ぶたいのです。

いのちの祈り 天のお父様、あなたがくださるいろいろなよいものを喜ぶ以上に、与え主なるあなたを心から喜ぶたいです。

2月14日(日)

聖書

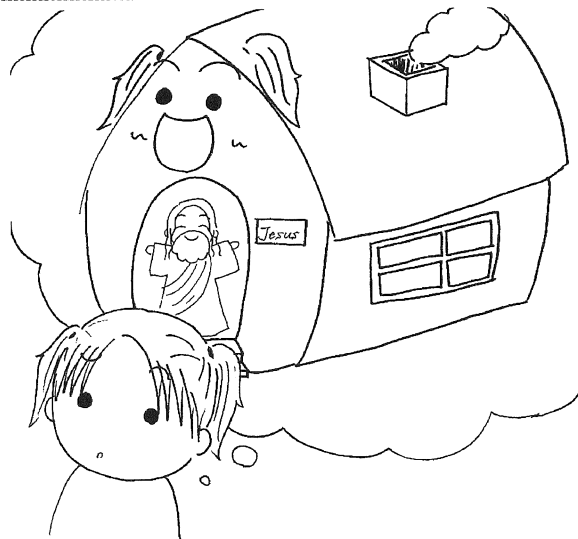
ガラテヤ 2・15～21

聖句

キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。 20節

新しい心でスタートした二〇一〇年もう二月の半分が過ぎていきます。では、心のチェック！ あなたの心の中心、王座、つまり心を支配する王様の座る所に、今、だれが座っていますか。もしかして「あなた」？「私です」となると大変。罪はゆるされていても、まだまだ、自己中心とかわがままとかねたみとか出てきませんか？ あなたも大変、まわりも大変です。その席をイエス様にゆずって座ってもらいます。イエス様にすべて導いてもらいましょう。

いのちの祈り 天のお父様、きょう、私の心のまん中にイエス様を王様としてお迎えします。イエス様に生きてもらいます。



聖書

ガラテヤ 2・15～21

タイトル

キリストが内に

暗唱聖句

キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。ガラテヤ 2・20

目標

古い私をキリストと共に十字架につけて、キリストを心に主として迎えよう。

2月16日(火)

聖書

ガラテヤ 5・13～15

聖句

その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい。 13節

自由だよと言われると、「ワイ！何やってもいいんだ。好きなことしちゃおう」と思う人もいるかもしれません。しかし、イエス様が私たちを、罪や、律法から自由にくださったのは、私たちが好き放題をするためではありません。愛をもって互いに仕え合うためです。律法の全体を一つの言葉でまとめるとしたら、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」ということになるからです。きょうも出会う人々に愛をあらわしていく一日になりますように。

いのちの祈り 天のお父様、愛をもって互いに仕え合っていく自由をイエス様がくださり感謝です。そのような一日にしてください。

2月15日(月)

聖書

ガラテヤ 5・1～6

聖句

自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。 1節

恵みにより信仰によって救われたのに、ガラテヤの人たちは、やっぱり割れを受けたり、律法を守っていかなくちゃと言いました。パウロ先生は「何を言うのですか」とこの手紙を書きました。イエス様は、律法のなわめから自由にくれたのです。律法の奴隷のくびきに二度とつながれてはいけませんよ。一番大切なのは、愛によって働く信仰です。「アレシテハイケナイ、コレシテハイケナイ」でなく自由な心で愛をもって信仰を働かせなさいと。

いのちの祈り 天のお父様、私たちは、あなたの恵みによって、心から信じて救われました。信仰によって歩ませてください。

2月18日(木)

聖書

ガラテヤ5・19～23

聖句

御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であつて、これらを否定する律法はない。

22～23節

肉と御霊のちがいが、「こ」でよくよくわかりますね。肉の働きはいやなものばかり。しかもこのようなことを行う者は、神の国をつぐことができないのですから、心がひきしまります。しかし、何と素晴らしい、うるわしい御霊の実でしょう！私たちがイエス様としっかりとつながってれば、当たり前のようにして、これらのうるわしい九つの実が結ばれていくのです。こんな素晴らしい実を否定する律法なんてあるわけがありません。実を結びたいね。

いの祈り 天のお父様、イエス様としっかりとつながって一つ一つのこのような実を結び続けられるよう助けてください。

2月17日(水)

聖書

ガラテヤ5・16～18

聖句

わたしは命じる、御霊によって歩きなさい。そうすれば、決して肉の欲を満たすことはない。

16節

ここに出てくる「肉」って何でしょう？牛肉？豚肉？鳥肉？それとも羊肉？いいえ、全部ちがいます。この「肉」とは、神様のお心にそむこうとする「私」のことなのです。あるいは別の言葉で「欲」とか「自我」とか「古い人」と言います。このやっかいなものはイエス様といっしょに十字架について死にますと信じて、そのかわりに、イエス様の御霊に導かれて歩きなさいというパウロ先生の勧め、いえ、命令です。御霊によってとは、つまりみ言葉によってということなのです。

いの祈り 天のお父様、パウロ先生が強く命令するほど大切なことがよくわかりました。み言葉によって歩いていきます。

2月20日(土)

聖書

ガラテヤ6・13～16

聖句

この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。

14節

だからパウロ先生は言います、「わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあつてはならない」(14)とね。私たちも心から、「アーメン！そのとおりです」と言いますよね。さらに、私たちがフラフラと、神様を信じていないこの世の中の誘惑にさそい出されるのに対して、この十字架のききめは十分あるのです。パウロと共に言いましよう。「この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んだー！この世と私の間に十字架を立てます」と。

いの祈り 天のお父様、十字架の力のすこさを感じます。このようにして神の子の私たちを守ってくださいありがとうございます。

2月19日(金)

聖書

ガラテヤ5・24～26

聖句

キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。

24節

私たちの心の中には、本当にいろいろとやっかいなものがあることがわかります。神様に喜ばれないものがここに出てきます。そして、イエス様のものとされた人は、それらを見事に解決してもらっているのだということもわかります。一つは「肉」で、今まで見てきましたね。もう一つは「情」です。悪い方、弱い方に流されやすい性質です。そして「欲」は、よくわかりますね。強すぎる願い。これらを全部十字架につけた者がイエス様の者なのです。

いの祈り 天のお父様、こんなやっかいなものを、イエス様の十字架で、解決していただき、心より感謝いたします。

2月21日(日)

聖書

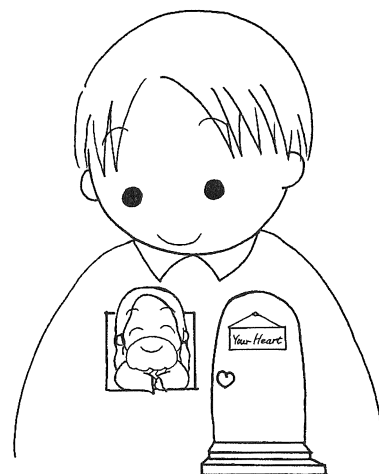
エペソ 3・14～21

聖句

信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み 17節

この世の億万長者（大金持ち）の財産よりもっとすごい財産が何だか知ってますか？それは『信仰』という財産です。幼い時から信仰が与えられているお友だちは何て幸せなことでしよう！そして神様は私たちの信仰を一番喜んでくださって、信仰によって、キリストが私たちの心のうちに住んでくださる！パウロは「この宝（キリスト）を土の器（私の心と身体）の中に持っている」（Ⅱコリント 4・7）と言ったのでした。

いのちの祈り 天のお父様、信仰をくださり感謝します。信仰によって、イエス様を心の中にお迎えできて本当に感謝です。



聖書

エペソ 3・14～21

タイトル

内住のキリスト

暗唱聖句

信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み

エペソ 3・17

目標

主キリストの内住信仰により、キリストの豊かな愛を知ろう。

2月23日(火)

聖書

エペソ 3・16

聖句

どうか父が、その栄光の富にしたがい、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように、 16節

健康食品や健康器具となると人々は超熱心！それに美容がつくとますます超夢中！こいつのを「外なる人づくり」と言っているんです。でもパウロ先生のお祈りはちがいます。「あなたがたの『内なる人』を強くして下さいように」とありますね。大切なのは、内なる人、つまり霊魂のことですよ。心がすぐ弱ったり、すぐ不信仰になったり、疑ったり、つまずいたり、そんな内なる人を、父なる神様がその栄光の富にしたがい、御霊により、力をもって強くして下さるように、と！

いのちの祈り 天のお父様、パウロ先生の力あるお祈りのように、私も自分自身のために祈りたいです。内なる人を強めてください。

2月22日(月)

聖書

エペソ 3・14～15

聖句

天上にあり地上にあつて「父」と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る。 15節

次にすごいのが「祈り」の力です。あなたはお祈りが好きな子ども？ちょっと苦手な子ども？お祈りっていうのが、これまたどんなにすごいことなのか、きょう心にしっかり刻みましよう。パウロ先生はここで、ひざをかがめてお祈りします。心からへりくだったお祈りですね。だれに？天上でも地上でもどこでも「父」と呼ばれているお方、あらゆるものの源なる父なる神様にお祈りをするのです。ひとりごとではありません。偉大な父へのお祈りですね。

いのちの祈り 天のお父様、あなたはすべてのものの創造者、支配者、父です。そのあなたにお祈りができてありがとうございます。

2月25日(木)

聖書

エペソ 3・17～19

聖句

すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、18節

「十人十色って聞いたことがありますか？ 人が十人集まるとみんなちがう、だれ一人同じ人はいないってことです。その一人ひとりが「こんなふうにしてイエス様に出会ったよ」と話していくと、「ホー」「へー」ととても感動するのです。それが「すべての聖徒と共に」ということで、そんなあかしを通して、イエス様の愛の広さ（宇宙大！）長さ（永遠！）高さ（天にまで！）深さ（陰府にまで！）がお互いにわかっていくのですから、心豊かになります。

いの祈り 天のお父様、あなたとイエス様の無限とも思えるご愛を、もっともっと知り、私の心が愛で満ちあふれますように。

2月24日(水)

聖書

エペソ 3・17～19

聖句

あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、17節

「イエス様のごことは、日曜日に教会に行っている時だけのこと、月曜日から土曜日までは私とは関係ないの」、では困るのです。信仰は日、月、火、水、木、金、土と毎日の生活の中で生き生きと働かせるものなのです。その生活というのは、「愛に根ざし愛を基として生活する」ものなのです。つまり心の内にお迎えしたイエス様は愛なるお方で、愛に生きたお方でした。そのイエス様の愛に根ざした毎日、イエス様の愛を基、土台とした生活を、との祈りです。

いの祈り 天のお父様、毎日毎日がいつもイエス様の大きな愛を土台とした生活になりますように、導いてください。

2月27日(土)

聖書

エペソ 3・20～21

聖句

教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アアメン。 21節

パウロ先生の神様は、「わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができた」です。あなたが毎日お祈りしている神様も、全く同じ神様ですよ！ 小さいあなたが信じてお祈りする神様も同じなのです。「教会により」とあります。教会はこの地上ではスペシャルなもの、イエス様を信じる人たちが集まる所、その中心、かしらはもちろんイエス様です。お家でもどこでも祈り、そして教会で祈りましょう！

いの祈り 天のお父様、あなたは私たちが祈り求め思うところのいっさいをはるかに越えてかなえてくださり感謝します。

2月26日(金)

聖書

エペソ 3・17～19

聖句

また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているものすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。 19節

人はとうていそのイエス様の愛を知り尽くすことはできないよ、と思うほどのイエス様の愛を、それでも知るこができるようにと祈りは続きます。そしてもっと進んだ祈りがパウロ先生の心から、口からほとばしり出ますよ。「神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る」と！ 何てあつかましくも大胆な祈りでしよう。こんな信仰の祈りを神様は喜んで待っていてくださいます。

いの祈り 天のお父様、本当にこの祈りのように、あなたの内に満ちているもののすべてをもって私を満たしてください。

2月28日(日)

聖書

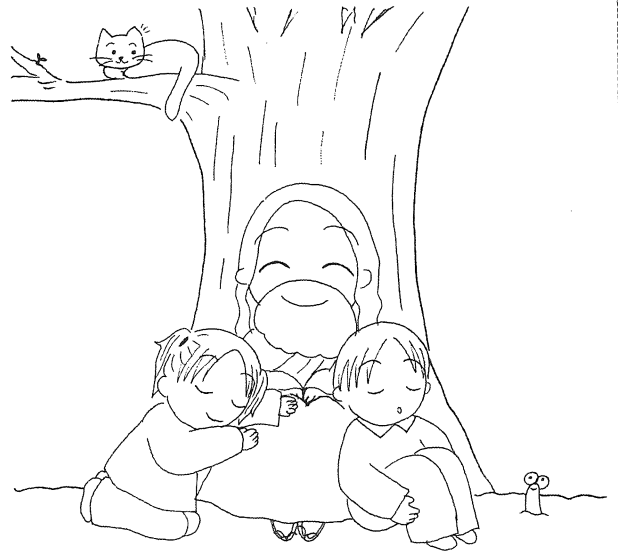
ローマ 8・18～30

聖句

からだのあがなわれることを待ち望んでいる。 23節

〈完成！〉とってもいい響きですよ。宿題完成、工作完成、お料理完成、何でもうれいです。じゃ、私たちのからだも〈完成！〉って時が来るのでしょうか？来るのです。神様が始めてくださったみわざは、神様が必ず完成してくださいます。いつ、どこで、私たちのからだは〈完成！〉となるかという、それはイエス様の再臨の時です。朽ちないからだによみがえって〈完成！〉です。その時まで、私たちは弱いからだの中でもその日を望んで祈り励むのです。

いのちの祈り 天のお父様、造ってくださったあなたが、必ず終りには、このからだをよみがえらせ完成させてくださることを感謝します。



聖書

ローマ 8・18～30

タイトル

待望の祈り

暗唱聖句

からだのあがなわれることを待ち望んでいる。 ローマ 8・23

目標

からだの復活の希望に生きよう。

3月2日(火)

聖書

ローマ 8・26～27

聖句

御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。 26節

足腰の弱い人には杖がたより。目の見えな人や、視力の弱い人にも白い杖や盲導犬が必要です。心の弱い私たちのためには、神様がイエス様の霊である御霊を送ってください。共におらせていてくださいます。特にこのお方が、弱い私たちを助けてくださるのはお祈りにおいてです。どう祈ったらよいかわからない私たちのためにとりなしてください。お祈りには素晴らしい力があります。まずは祈る私の心が信仰にあふれ強くされるのです。

いのちの祈り 天のお父様、完成をめざしていく弱い私のために、御霊の助けを与え、強くくださり、感謝します。

3月1日(月)

聖書

ローマ 8・18～22

聖句

被造物は、実に、切なる思いで神の子たちの出現を待ち望んでいる。 19節

あなたも何かを「首を長くして待った」ことがありますか？クリスマス？お正月？バースデー？外国では「つま先立ちして待つ」という言い方もあります。つまり、この言葉は、人間の救いが完成して弱肉強食と滅びのなわめから解放されるのを、神様に造られたすべてのものが、今か今かと待っているという意味です。ワットソンという先生が、「牛がモーと鳴く声にも、その切なる思いがこめられている」と言われたそうです。あなたのペットの鳴くのもそうかも!!

いのちの祈り 天のお父様、人間だけでなく、造られたすべてのものが完成の日を待ち望んでいることがよくわかりました。

3月4日(木)

聖書

ローマ 8・31～32

聖句

もし、神がわたしたちの味方であるなら、
だれがわたしたちに敵し得ようか。31節

「いつまでも友だちでいようね！ボクたちはいつも味方どしだ」と指きりげんまん約束しても、小学校を卒業したらバラバラになったり、途中で味方のはずがそうでなくなったりもします。でもただ一人、いつもいつまでもあなたの味方でいてくれる方、それが神様です。なぜって、あなたや私たちみんなのために、ひとり子さえも惜しみなく与えてくださったのですから！この神様が味方だったら、私たちが他の何物も敵対することはできません。

いのちの祈り
天のお父様、ひとりぼっちと思う時も、そうじゃない、神様が味方なんだと、いつもあなたを見あげていきます。

3月3日(水)

聖書

ローマ 8・28～30

聖句

神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。28節

「へえ、すべてがうまくいく、思っているとおりにしてくださるなんてうれしいなア」と思わないでください。うれしいことや、悲しいことや、苦しいことや、つらいことや、チグハグすることや、あれやこれや毎日の生活の中で、いろんなことが起こります。それらは神様のみ許しでおこり、それらが相働いて、すべてをご存知の神様が、何と私たちをイエス様に似たものとしてくださるということです。これを摂理と言います。

いのちの祈り
天のお父様、私にはわからない所であなたの摂理のみ手が働いて、私をイエス様のような人にしてくださり感謝です。

3月6日(土)

聖書

ローマ 8・37～39

聖句

わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。37節

一体、こんな力強くも熱い、イエス・キリストの父なる神様の愛から、私たちを引き離したりできるものがあるのでしょうか？「ありません！」とパウロ先生は叫びます。この愛に囲まれ続けている人は、すべてのことにおいて、勝利できるのです。それも、余りある勝利ですよ。「ラクシヨウ」というものです。時には弱い感情をもつ人間だから、涙が出たりするかもしれない。だからといってメソメソしてダウンしてしまわない。愛ではじきとばします。

いのちの祈り
天のお父様、あなたとひとり子イエス様の愛で取り囲んでくださり、勝ち得て余りある人生を歩み続けさせてください。

3月5日(金)

聖書

ローマ 8・33～36

聖句

キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。34節

たくさんの人々の中から、たくさん子どもたちの中から、あなたは神様に選ばれた子ども！どうして？不思議だと思いませんか。その選ばれたあなたを訴える、つまり、「よくないことをしている！」とか言う人に対して、「いや、神様は私を義としていてくださる」。そして、「罪人だ！」と言う人に対しては、「キリストがすでにその罪の身代わりとなって死んで、よみがえって、神の右に座してとりなして下さる」と、堂々と言うことができるのです。

いのちの祈り
天のお父様、私にとって、イエス様がどんなにか大切な救い主であるのかが、本当によくわかり感謝します。

3月7日(日)

聖書

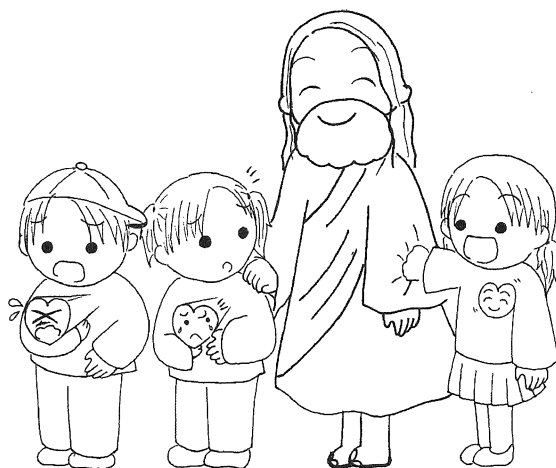
ヨハネ14・1～7

聖句

あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。1節

今年、最後の月になりました。三月は「再臨の希望」をもつて明るく1年を終わりました。今「死んだら、どこへ行くのかな...?」と考えたことがあるでしょう。冷たく暗いお墓の中でおしまいではありません。イエス様が天に帰られる前に、不安でいっぱいのお弟子さんたちに「心配しないでいいよ、神様を、そしてわたしを信じていれば大丈夫! 父の家には、すまい(マンション)がたくさんあるから。あなたがたのために用意するから」と言われました。

いのちの祈り 天のお父様、きょう、あなたを信じる私のためにもちゃんと用意していてくださることをありがとうございます。



聖書

ヨハネ14・1～7

タイトル

父の家の希望

暗唱聖句

あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。ヨハネ14・1

目標

天に備えられた住まいを思い、堅く神を信じよう。

3月9日(火)

聖書

ヨハネ14・8～12

聖句

わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。11節

お弟子のピリポは、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい。わたしたちは満足します」と言いました。今でも同じことを言う人たちがいるでしょう。「神様を見せてください」と。「わたしを見た者は、父を見たのである」とイエス様が言われました。弟子たちの目はパチクリ。何とすごいことでしょう。イエス様を見たお弟子さんたちは、父なる神様を見たことになる! 父とイエス様とは、本当に一つだったということですね。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様をその時に見た人は、あなたを見た! ということがわかり、ただ驚くばかりです。

3月8日(月)

聖書

ヨハネ14・1～7

聖句

わたしは道であり、真理であり、命である。6節

父なる神様に通じる道はただ一つ、神様がおつかわしくくださったイエス様だけです。オンリー・ワン・ウェイ! です。そして、私たちのために、天において永遠のすまい(そう、マンションですよ)を用意しに行ってください。用意ができたなら迎えに来てくださるのもイエス様だけです。イエス様が私たち信じる者たちを迎えに来てくださるということです。これを再臨といいます。よみがえって道となり、やがて再び来られる救い主。この神こそまことの神です。

いのちの祈り 天のお父様、数え切れない神々や宗教はどれもニセモノ。道であるイエス様によって、まちがいでなく天に導いてください。

3月11日(木)

聖書

ヨハネ14・15～17

聖句

父は別に助け主を送って、いつまでも
あなたがたと共におらせて下さるであ
ろう。 16節

まもなくイエス様は、弟子たちを離れて、
天の父なる神様のもとへ帰って行かれよ
うとしていました。そこでイエス様は、父
なる神様にお願いをしてくださるのです。
父が別に助け主を送ってくださるように、
そしていつまでも共におらせてくださるよ
うにと。この助け主が聖霊なる神様のこと
です。そして真理の御霊でもあるのです。
目には見えませんが、イエス様がお願いま
で、父が送ってくださった聖霊なる神様は
いつも私たちを助けてくださいます。

いの祈り 天のお父様、イエス様は今天におられますが、
別に助け主なる聖霊を送って、共におらせていて
くださり感謝します。

3月10日(水)

聖書

ヨハネ14・13～14

聖句

わたしの名によって願うことは、なんで
もかなえてあげよう。 13節

お祈りを毎日していますか。もしかして、お
祈りの仕方をまだ知らない人がいますか。「神
様」と呼びかけます。そのあとは、何でもお話
したらいいのです。感謝のお祈り、おわびのお
祈り、お願いのお祈り（これが一番多い！）と
りなしのお祈り、どんなお祈りでもいっぱいし
てください。そして最後に「イエス様のお名前
によってお祈りします、アーメン」です。イエ
ス様のお名前には力があり、そのお名前によっ
て願うことはなんでもかなえられるなんて！

いの祈り 天のお父様、素晴らしいお約束をありがとうございます。
今までより、もっともっとお祈りをし
ていきます。

3月13日(土)

聖書

ヨハネ14・25～31

聖句

わたしは平安をあなたがたに残して行
く。わたしの平安をあなたがたと与え
る。 27節

「きっと迎えにきますから」と、何かしる
しになるものを置いて、出かける人のよう
に、イエス様が置いていくくださったもの
は「平安」でした。しかも「わたしの平安」、つ
まり、「イエス様の平安」でした。私たちの心
が安らかでいることができるのは、イエス
様がまたきつと迎えにきてくださると信じ
るからです。「イエス様の平安」とは、イエス
様がこれから向かって行くところとされた十字架
までのお苦しみの中にも全く平安でおられた
そのおどろくばかりの平安のことです。

いの祈り 天のお父様、あなたにすべてをゆだねて平安で
いられたイエス様のように、心を騒がせることな
くあなたを信じさせてください。

3月12日(金)

聖書

ヨハネ14・18～24

聖句

わたしはあなたがたを捨てて孤児とは
しない。あなたがたのところに帰って
来る。 18節

孤児とか、みなしごととか、両親や面倒を
見てくれる人のいない子どもたちはとって
も気の毒です。イエス様がこれまで3年半
共にいて、弟子たちの面倒を見てくださっ
たり教えてくださったたりしたのに、天に帰
られるなんて…。でもイエス様ははっきり
と言われます。「孤児とはしませんよ！ま
た必ずあなたがたのところに帰って来ます
よ」と。ここにも、イエス様の再臨のこと
が叫ばれています。イエス様は本当に、信
じる私たちをきつと迎えに来られるのです。

いの祈り 天のお父様、不安でいっぱい弟子たちにうれ
しいお言葉でした。私たちにもこう語っていてく
ださり感謝します。

3月14日(日)

聖書

Ⅱ ペテロ 3・8～18

聖句

わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。 13節

モーセの十戒をみんなが守る世界になったら、どんなに素晴らしく幸せでしょう！つまり、真の神様だけを拝み、だれも人を殺さない、夫婦はみんな仲良く愛し合い、人の物を盗んだり、うらやましがったりしない、親を尊敬して、いつも日曜日にはみんなが教会へ行って神様を礼拝する!! 今地球の現実からはとても考えられないですね。しかし、イエス様の再臨を待ち望む私たちが、やがて住む所はまさにそのものズバリ、義の住む新しい天と地なのです！

いのちの祈り 天のお父様、私たちが待ち望む新天新地が、本当にいかに素晴らしい所か、ひしひしと魂に伝わってきて感謝です。



聖書

Ⅱ ペテロ 3・8～18

タイトル

再臨に備える

暗唱聖句

わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。 Ⅱ ペテロ 3・13

目 標

神の忍耐を思い、目を覚まして新天新地を待ち望もう。

3月16日(火)

聖書

Ⅱ ペテロ 3・8～9

聖句

ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。 9節

神様の時計やカレンダーは超不思議。神様にとっては一日は千年のよう、千年は一日のようだとあります。実は神様は時間を超越した、永遠なるお方なのです！再臨再臨と言いながら、遅いではないかとある人々は思っているようですが、神様は約束の実行を遅くしておられるのでは決してありません。それはなぜかと言うと、ひとりも滅びてほしくない神様が、「まだか、あの子が信じて救われるのはまだか」と長く忍耐して待っていてくださるのです。

いのちの祈り 天のお父様、あなたの長い忍耐で、私も救われました。ありがとうございます。多くの人の救いを祈ります。

3月15日(月)

聖書

Ⅱ ペテロ 3・1～7

聖句

その時の世界は、御言により水でおおわれて滅んでしまった。 6節

いつでもあざける人があらわれます。終りの時にも、欲のままに生活しながら「主の来臨の約束は一体どうなったのか？天地創造の初めから、何も変わってはいないじゃないか」と言います。いいえ、そんなことはありません。大洪水があったでしょう。ノアの時、世界は一度水で滅んでしまったのです。今の天と地もやがては、不信仰な人々がさばかれて、火で焼かれて滅ぼされる日が来ます。その時までみ言葉で保たれているのです。その時、あなたはどうしますか!!

いのちの祈り 天のお父様、あざける人々は、何もわかっていないのです。あなたのみわざに対してしっかりと目を開かせてください。

3月18日(木)

聖書

Ⅱ ペテロ 3・11～13

聖句

神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなた
がたは、極力、きよく信心深い行い
をしていなければならない。 11～12節

というわけですから、ブーツとしてはい
られませんか。しっかりと心の眼をさまし
ておくこと。その日を熱心に待ち望んでい
るなら、聖なるお方のみ前に立つのですか
ら、極力、できうる限り、きよく信心深い行
いをし続けていなければなりません。私た
ちの眼がどこをじっと見つめているかによ
って、今の生き方が変わってくるのです。
きょうもきよい生活をしているかしら。信
心深い行い、つまり神様を心からおそれ敬
って行動していますか。チェック！

いの祈り
天のお父様、いつ主がおいでになっても大丈夫
なように、毎日あなたと共に生活できるように守
ってください。

3月17日(水)

聖書

Ⅱ ペテロ 3・10

聖句

しかし、主の日は盗人のように襲って
来る。 10節

どろぼうに入られたことのある人！恐ろし
かったでしょうし、不気味だったし、ゾツと
したことでしょう。どろぼうは、少し前くら
いに連絡してきて「3日後に、お宅にどろぼ
うに入りますよ」なんて言わないでしょう。
突然、いきなり、知らない間に入られてしま
います。主の日、つまりイエス様の二再臨も、
ちょうどそのような具合に襲ってきますよ。
その日には、大きな響きと共に天体も地上の
ものも一気に焼けくずれます。作り話ではな
いのです。

いの祈り
天のお父様、イエス様のご再臨は不意打ちのよ
うにして突然来るということを、よくよく心に刻
ませてください。

3月20日(土)

聖書

Ⅱ ペテロ 3・15～18

聖句

わたしたちの主の寛容は救のためであ
ると思いなさい。 15節

「なあんだ、この世界はいつまでも同じじゃ
ないか」とペテロの時代の人々が言ったよう
な声が聞こえてきそうです。「二〇〇〇年で大
さわぎしたけど、もう二〇一〇年にもなった
し！」とね。これはどんなにかどんなにか、
主の忍耐と寛容があつてのこと、それは多く
の人々に救われてほしいとの神様の熱い願い
がひそんでいるからです。神様に待ってもら
って、あなたはもうイエス様を信じてる？そ
れなら私たちも大きな寛容と深い忍耐で人々
に救いを伝えよう。

いの祈り
天のお父様、あなたの忍耐と寛容をありがと
うございます。周囲の人々が救われるように私も働
きかけます。

3月19日(金)

聖書

Ⅱ ペテロ 3・14

聖句

この日を待っているあなたがたは、しみも
なくきずもなく、安らかな心で、神のみま
えに出られるように励みなさい。 14節

小学校の卒業式ももうすぐでしょう。
6年間、励むことができて、ゴールにたど
りつくのは喜びですね。私たちの人生、人
によって長い人もあれば、短い人もありま
す。そのゴールが「この日」つまり「主の
日」、突然やってくる主の再臨の日ですね。
神様と顔と顔を合わせてお会いするのです
から、しみもなくきずもない者として用意
をしたいですね。これはイエス様の血潮に
よります。また安らかな心で主とお会いで
きるように、祈り、励むほがありません。

いの祈り
天のお父様、神様とお会いすることがとっても
現実味をおびてきました。しみやきずのない安ら
かな心をください。

3月21日(日)

せいしよ
聖書

もくしろく 黙示録22・12～21

せいこく
聖句

しかり、わたしはすぐに来る。 20節

遠くへ引越して行った大の仲良しのお友だちが、「この春休みに遊びに行くよー」って電話してきてくれたら本当にうれしくて、楽しみで、「ワーイ！早く来てねー」と返事をするでしょう。ここでは、私たちの大好きなイエス様が、「わたしはすぐに来るよー」と呼びかけておられるのですから、何も言わないで、黙っているのはおかしいですよ。『アアメン、イエス様早くおいでください！』と、心から言います。それが再臨を待つ信仰なのです。

いの祈り 天のお父様、私のためにもう一度イエス様が天から来てくださることをありがとうございます。「主よ、早く来てください」。



せいしよ
聖書

もくしろく 黙示録22・12～21

タイトル

さいりん 再臨の宣言

あんしよせいこく
暗唱聖句

しかり、わたしはすぐに来る。 黙示録22・20

もく
目

ひょう
標

しゅ 主の宣言に「アアメン、主イエスよ、きたりませ」と応答しよう。

3月23日(火)

せいしよ
聖書

しとぎょうでん 使徒行伝 1・6～11

せいこく
聖句

このイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。 11節

復活されたイエス様が40日目にオリブ山から天に上げられ、父なる神様のもとに帰って行かれました。雲に迎えられてその姿が見えなくなるのを、弟子たちはとても心細そうに、じっと見つめていました。すると白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて言ったのです、「この同じ姿で、イエス様はまた来られますよ」と。そうなのです。イエス様はまず空中に現れ、そのあと、そのオリブ山に立たれるのですよ！弟子たちはとても安心しました。

いの祈り 天のお父様、イエス様が天に帰って行かれたのと同じ姿で、同じ所に来てくださるとのお約束を感謝します。

3月22日(月)

せいしよ
聖書

マタイ24・32～42

せいこく
聖句

ひと 人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。 37節

いつ、イエス様がもう一度来られるのか？だれも知りません。天のみ使いたちも知りません。なんと、来られる張本人のイエス様だって知らないのです！「ええっ!?」と思ってしまいますね。ではだれが知っているの？天の父なる神様だけが知っておられます。そしてイエス様が再び来られる時は、ちょうどノアの時のようです。そんな洪水なんてありつこないと、食べたり飲んだりしていたら、突然来ました！ですからしっかりと目をさましていきましょう。

いの祈り

天のお父様、いつまでも今のままのように思っていたら、突然イエス様が来られます。十分 備えさせてください。

3月25日(木)

聖書

黙示録22・8～11

聖句

この書の預言の言葉を封じてはならない。時の近づいているからである。 10節

「これらの言葉は信すべきであり、まことである」と6節にはあります。「聖書はともむずかしくて、よくわからないよ」と思う子がいるかもしれません。大人だってそういう人がいるかもしれません。でも聖書は、絶対に大丈夫で、信じられるべきで、まこと、本当のことばかりが書かれています。人の言葉は、信用していたら大変な目にあっちゃった、というようなこともあります。ますます言葉をはっきり教えていただいて、心に受け入れていきましょう。

いのちの祈り
天のお父様、日一日とイエス様が来られるのが近づいています。預言の言葉、み言葉を語り伝えていきます。

3月24日(水)

聖書

黙示録22・1～7

聖句

見よ、わたしは、すぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は、さいわいである。 7節

愛の使徒と言われたヨハネはずいぶん長生きをしました。大切な使命が神様から与えられていたからです。この世界の終りがどうなっていくのか、神の国がどうやってあらわれるのかなどについて、神様の秘密がヨハネの前に開かれて、この黙示録を記しました。一番終りには天国の有様が書かれています。水晶のように輝いているいのちの水の川が中心でした。この美しい輝く天国にみんな入らせてほしいですね。み言葉を守る幸いな人がそうなります。

いのちの祈り
天のお父様、すぐに来るとくり返し言われるイエス様の言葉を心より守って天国に迎えていただけますように。

3月27日(土)

聖書

黙示録22・16～21

聖句

御霊も花嫁も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」といいなさい。 17節

イエス様のうるわしい自己紹介があります。ダビデの子孫としてお生れになられた。それもピチピチした希望にあふれた若枝です。そして輝く明けの明星です。やがて朝が来て、希望の夜明けとなり、まぶしいばかりの真昼となります。このお方へのまたまたうるわしいコーラスが続きます。御霊も、花嫁も、つまり救われた私たち一人ひとりも、「きてください！」「言い、それを聞く人にも「きてください！」と言ってもらうのです。

いのちの祈り
天のお父様、私の心にもイエス様の再臨を待つ熱い心をお与えください。そして御霊と共に「きてください」といいます。

3月26日(金)

聖書

黙示録22・12～15

聖句

見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。 12節

あなたは今までに、たくさんさんの賞状とか賞品とか、「ごほうびをもらったことがありませんか？ 大人の人もノーベル平和賞とかを、社会のために尽くした人たちがもらいます。実は、イエス様も再び来られる時に「報い」つまりごほうびを持って来てくださるというのです。「わあ、すごい、楽しみだなあ」と思いますね。この地上で何をしたらによって、ふさわしいごほうびが与えられます。イエス様は、私たちが何をするかを、ちゃんとして見ていらっしゃるのですね！

いのちの祈り
天のお父様、よいごほうびをいただけるように、だれが見ていなくても、イエス様の目の前で生きられますように。

3月28日(日)

聖書

ヨハネ19・28～30

聖句

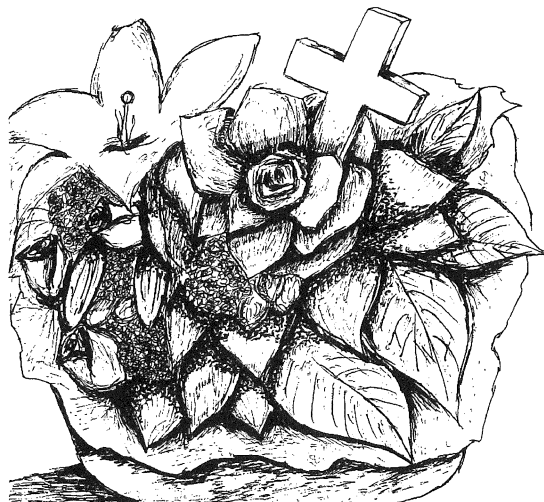
すべてが終った。

30節

きょうはパームサンデー、棕櫚の主日です。人々が棕櫚の枝を振りながら「ホサナ！ホサナ！（わたしたちを救ってください）」と叫びつつ、イエス様が子ろばに乗ってエルサレムに入城するのを迎えました。その叫びはやがて「十字架につけよ！」に変わりましたが、イエス様は叫びに応えて完全な救いの道を開かれました。「すべてが終った」、完全に救い、あがないのみわが成し遂げられましたという、十字架上での六番目のお言葉でした。

いの祈り 天のお父様、短いきょうのお言葉は、どんなにか重くて尊い、救い主イエス様の苦しみの中での宣言だったことでしょう。

パームサンデー



聖書

ヨハネ19・28～30

タイトル

救いの完成

暗唱聖句

すべてが終った。ヨハネ19・30

目録

完全に成し遂げられた救いの完成である再臨を待ち望もう。

3月30日(火)

聖書

マタイ27・45～56

聖句

わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。46節

イエス様は十字架の上で、七つのお言葉を言われました。このみ言葉は、ちょうどまん中の四番目の、とっても大切なみ言葉です。なぜかと言うと、この叫びで、「ああ、本当にイエス様は父なる神様から完全に断絶されたのだ、完全に捨てられてしまわれたのだ」とわかるからです。それは、私たち一人ひとりの罪を背負って、私たちに代わって完全に捨てられてくださったということです。そこで本当の「死」を味わってください、復活して死を滅ぼされました。

いの祈り 天のお父様、十字架のイエス様の上に私の罪が完全にすべて置かれて、主はあなたから捨てられ、完全に死なれたことがわかりました。

3月29日(月)

聖書

ルカ23・32～38

聖句

父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。34節

背中にもちを打たれ、頭には長いトゲのある茨の冠をのせられ、目かくしされてほおをたたかれたり、つばをかけられたり、あざけられたり、のしられたり、そして十字架につけられたイエス様。その苦しみの中の祈り。完全なゆるしの祈りでした。何をしているのか、わからずにいるのですからゆるしてあげてくださいと。私のためにもイエス様はこう祈ってください。私のためにも完全にゆるされました。感謝！感謝！感謝！私もゆるせる人になってください。

いの祈り 天のお父様、イエス様のゆるしは完全でした。私も完全にゆるされたので、完全にゆるせる子どもになりたいです。

4月1日(木)

聖書

黙示録21・1～2

聖句

わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。 1節

神様が造りになった今の天と地とは、やがて古い天地として消え去っていくのです。今の時代、創造のはじめから考えると、自然破壊も激しいですよ。もはや初めに造られたものからは、ずい分変えられてしまっているでしょう。この古い天地、先の天と地とが消え去り、海もなくなってしまう、その時、新しい天と新しい地が神様から与えられます。そして、聖なる都、新しいエルサレムが夫のために着飾った花嫁のように、天から降ってくるのです。

いのちの祈り 天のお父様、救いの完成はこのようにして、全宇宙にまで見られることがよくわかりました。何という希望でしょう！

3月31日(水)

聖書

ヘブル9・11～15

聖句

ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである。 12節

全く、完ぺきに罪のないイエス様の血、その血を命の犠牲、供え物としてイエス様は、たった一度だけ、聖所にはいられました。つまり、一度きりの十字架の死で、完全な、そして、永遠のあがない、救いのみわざを完成してくださいました。ハレルヤ！今からおよそ二〇〇〇年前のことです。しかし、血の力は何千年たっても、永遠にあるのです。変わらないのです。一度で完全な血のあがないです。いつでも、イエス様の血の力に頼りつづけていきましよう。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様の十字架と流してくださった尊い血を感謝します。一度にして完全なあがないに感動です。

4月3日(土)

聖書

黙示録21・5～8

聖句

事はすでに成った。わたしは、アルパでありオメガである。初めてであり終りである。 6節

アルパとオメガは、ギリシャ語のアルファベットののはじめの文字と終りの文字です。英語だとAとZ、日本語だと「あ」と「ん」となります。遠足に行った時とか、先生が一番前と一番後を歩いてくださったって、みんなは安心して歩いていけるでしょう？神様が言われます。「事はすでに成った、全部完成！完了！」「私が初めて、事を始めたけれど、事を完了するのも私だよ」と言われます。私の一生も私の信仰生活もすべて、神様が始めて、完成されます。お任せしましょう。

いのちの祈り 天のお父様、あなたのみわざにはさまれて、私は本当に安心です。救いの完成の時、再臨を心より待ち望みます。

4月2日(金)

聖書

黙示録21・3～4

聖句

人の目から涙を全くぬぐい取って下さる。 4節

毎日のように泣く子もあれば、何があっても泣かない子もいるでしょう。あなたはどちらかな？一体今までどれくらい涙を流したでしょう。うれし涙もあるけれど、やっぱり悲しい時、苦しい時、つらい時、流す涙は多いですよ。ところが、新天地では、神様が私たちと共にいてくださって、人の目から涙を全くぬぐい取ってくださるのです！死も叫びも悲しみも痛みも全くない所だからです。すごい、そんな日が早く訪れると思いますね。

いのちの祈り 天のお父様、あなたが、私たちの流す涙を目からやさしく、しかも全くぬぐい取ってくださる日が待ち遠しいです。